

電子情報通信学会 情報通信エンジニアリング部門

- 紹介資料 -

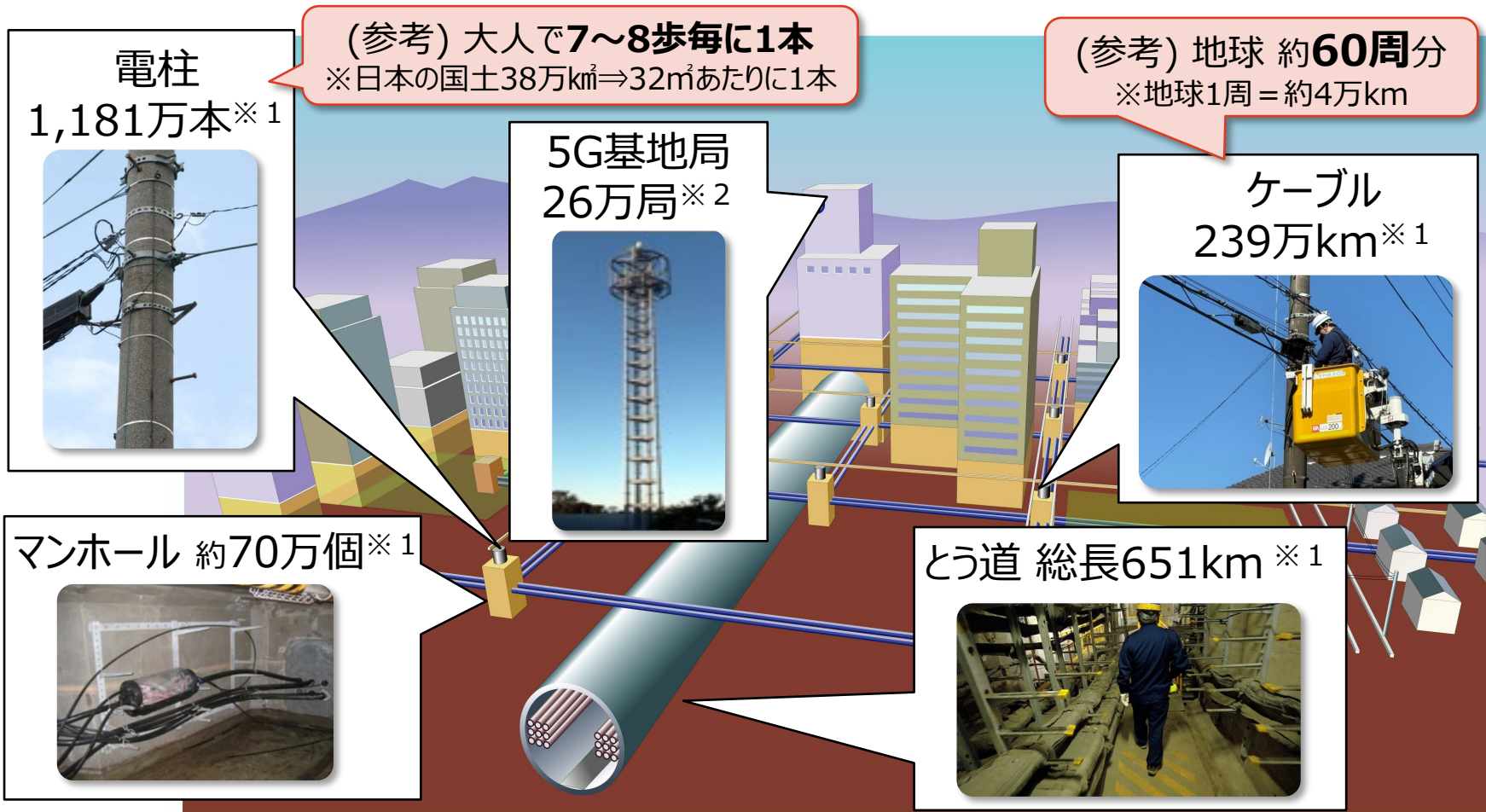
- 組織設立の背景・趣旨
- 活動のご紹介
- 個別テーマ、今後のロードマップ
- 組織構成
- 特別会員のご案内

EIC 電子情報通信学会について



- 電子・情報・通信・エレクトロニクス分野を担う
日本最大の国際学会
- 国内外の教育・研究機関、企業に所属する研究者・技術者約23,000名を擁する
- 1911年当時の逓信省電気試験所の研究会を源流とし、1917年5月1日に電信電話学会が創立されたことに始まる
- 2017年に創立100周年を迎えた

EIC 社会インフラを支える通信設備



全国の光ファイバ整備率※3

99.84 %

(2023年3月末時点)

全国の5G人口カバー率※3

98.1 %

(2024年3月末時点)

※1: NTT東西の設置数 (2023年度末) ※2: NTTドコモ・KDDI・ソフトバンク・楽天モバイルの設置数 (2023年度末) ※3: 令和7年情報通信白書



エンジニアリング

通信を提供し、社会インフラを構築



開発

設計

構築

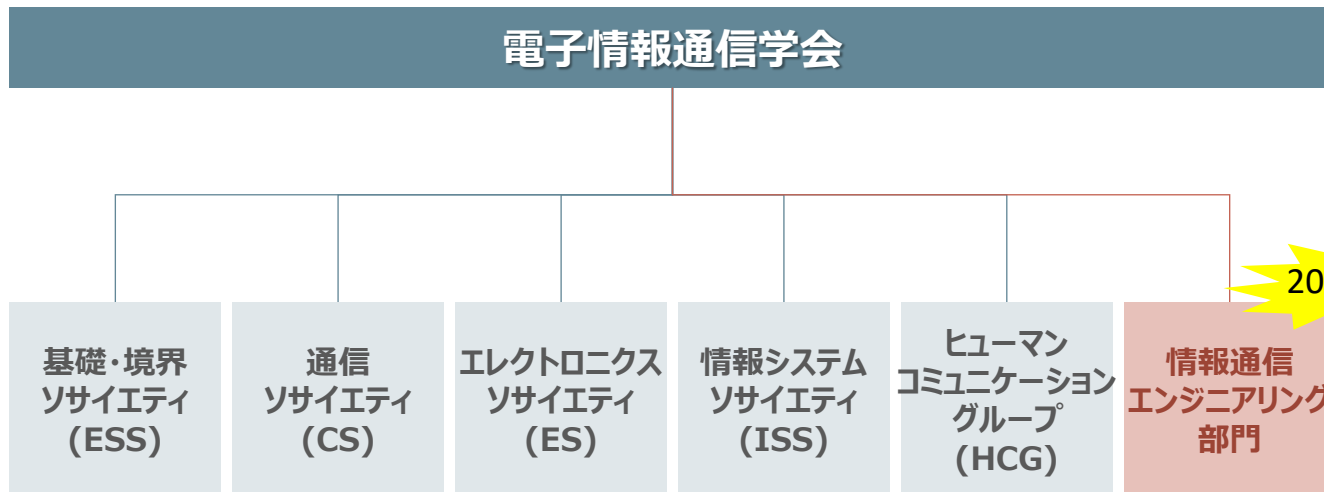
運用

eiC 情報通信エンジニアリング部門について

- ・ 情報通信インフラは人々に多大な恩恵をもたらす社会基盤・システムとなり、通信障害の社会影響も拡大
- ・ 情報通信インフラの総合的な運営(設計、工事、運用、維持管理)は学会の使命
- ・ 情報通信エンジニアリング分野の健全な発展への寄与、社会への正確な情報発信の機能が学会に必要

- ・ このような課題認識のもと、

2025年、電子情報通信学会内に「情報通信エンジニアリング部門」を設立



(学会定款より引用)

本会は、電子工学および情報通信に関する学問、技術の調査、研究および知識の交換を行い、学問、技術の進歩および成果の普及を図り、もって学術の発展と 社会に広範な公益をもたらす通信インフラの発展に寄与することを目的とする。

情報通信エンジニアリング部門発足にあたって

部門長 森川 博之

このたび、電子情報通信学会において「情報通信エンジニアリング部門」が発足しました。皆様方のご支援にあらためて感謝申し上げます。

情報通信インフラは、今や現代の人々の生活を支えるとともに将来の人々にも多大なる恩恵をもたらす社会基盤となりました。そして、この社会基盤を支えていただいている方々が日本全国津々浦々に多くおられます。

本部門の目的は、デジタル社会の根幹を支える情報通信インフラの持続可能かつ健全なる発達を図り、社会の発展に寄与することです。本部門がカバーする領域は、通信ネットワークの設計、災害時のインフラ復旧、通信品質やエネルギー効率の向上、通信建設DX、技術継承や人材問題、情報通信政策・官民連携の在り方、社会への正確な情報の発信など多岐に渡ります。

情報通信エンジニアリング活動への強力なご支援をよろしくお願いいたします。



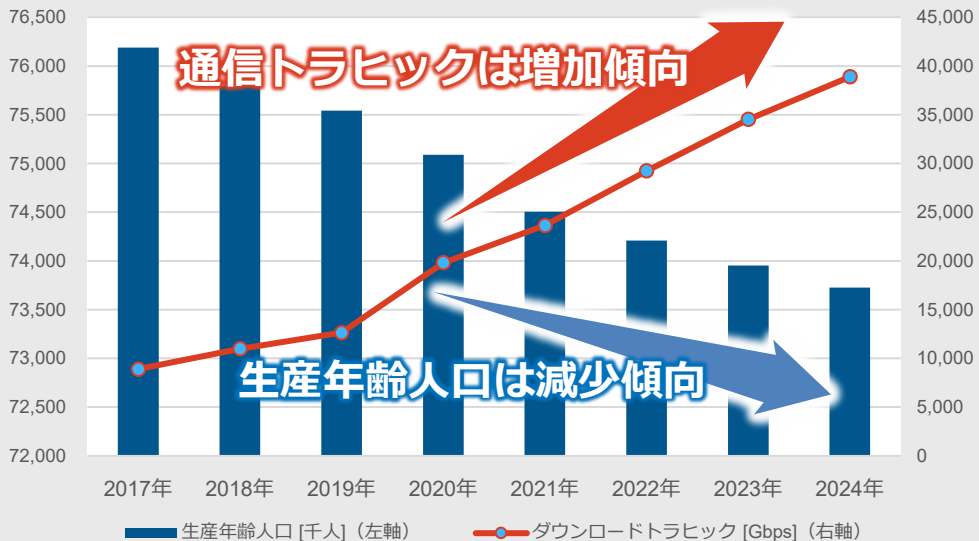
プロフィール

1987年東京大学工学部卒業。2006年東京大学大学院教授。
情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）会長、Beyond 5G新経営戦略センター長、XGモバイル推進フォーラム共同代表、
ブロードバンドワイヤレスフォーラム会長、渋谷国際都市共創機構代表理事、電力データ管理協会代表理事、情報社会デザイン協会代表理事等。
総務省情報通信審議会部会長、OECDデジタル経済政策委員会（CDEP）副議長、電子情報通信学会会長等を歴任。
著書に「データ・ドリブン・エコノミー」「5G」など。

EIC 取り組み内容の背景と課題

設備の老朽化によるインフラ影響

八潮の道路陥没



[総務省ダッシュボード] および [総務省 我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計・試算]の情報をもとに、グラフを作成

環境変化

働き方改革

例：建設2024問題

設備老朽化

例：八潮の道路陥没

気候変動

例：異常気象

労働人口の減少

例：2020年→2050年で26.2%減少

課題

DX
シェアリング

現場安全

災害への対応
カーボンニュートラル

人材確保



以下の個別テーマについてチーム(協議会)を組成し検討を推進
(ご興味に応じ、詳細は別紙パンフレットを参照ください)

課題
DX シェアリング
現場安全
災害への対応 カーボンニュートラル
人材確保



4つのテーマを設定



eic 会員企業・委員

発足時会員企業(特別会員)



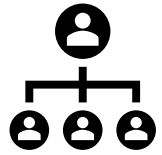
参画企業(特別会員)

JTOWER

委員名簿

部門長	森川 博之 (東京大学)
副部門長	佐々木 秀則 (KDDI)
副部門長	磯邊 直志 (楽天モバイル)
幹事	岡 宗一 (NTT)
幹事	須山 百合子 (ソフトバンク)
委員	大橋 弘美 (古河電気工業)
委員	島田 達也 (NTT)
委員	浅井 孝浩 (ドコモ・テクノロジー)
委員	成末 義哲 (東京大学)
委員	吉敷 由起子 (構造計画研究所)
委員	杵浦 維勝 (総務省)
委員	北神 裕 (総務省)
委員	松本 健一郎 (NTT)
委員	蓮沼 智幸 (NTT)
委員	中川 卓 (NTT)
委員	中村 元 (KDDI総合研究所)
委員	相馬 匡靖 (KDDI)
委員	織田 洋平 (ソフトバンク)
委員	門家 大 (ソフトバンク)
委員	川畑 達也 (ソフトバンク)
委員	鎌田 英彬 (楽天モバイル)
委員	大島 成哲 (楽天モバイル)
委員	奥村 梨奈 (電子情報通信学会)

eic 組織図

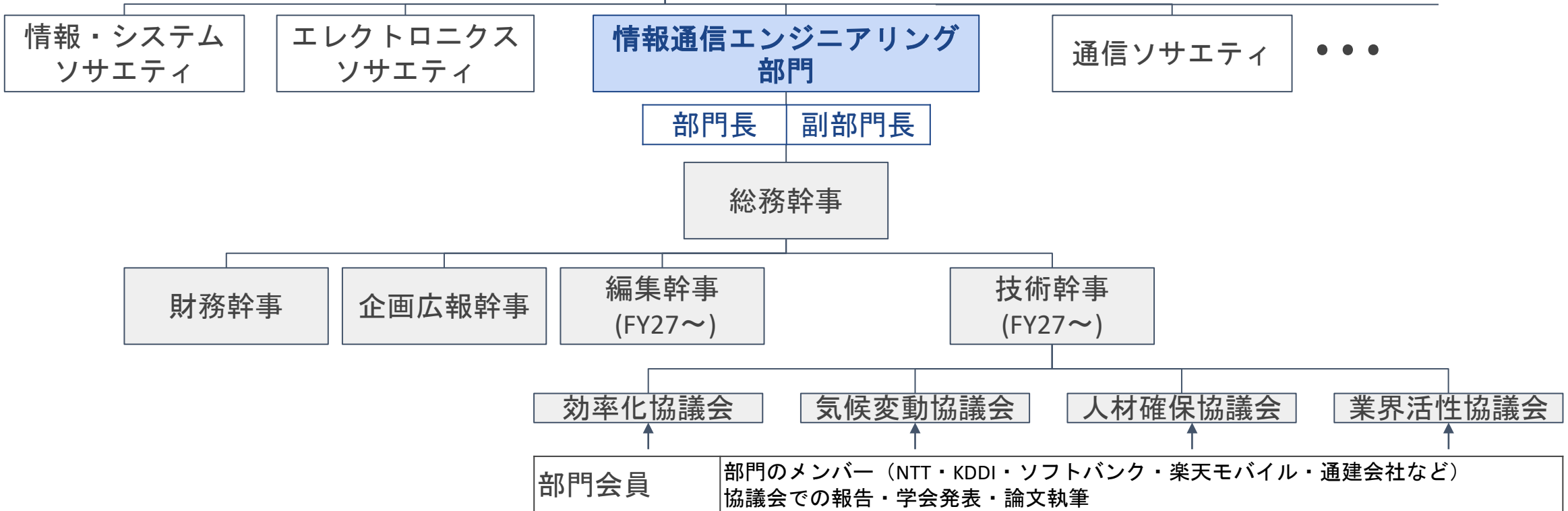


活動組織 (FY26～)




社員総会

理事会



EIC これまでのあゆみ

2023	2024	2025	2026
<p>★11月 前身となる 「情報通信エンジニアリングWG」 第1回会合を開催</p> <p>▼3月 総合大会講演(広島大)</p> 	<p>▼6月 COMNEXT2024 登壇(ビッグサイト)</p>  <p>▼3月 総合大会講演(東京都市大)</p> 	<p>▼6月 情報通信エンジニアリング部門 正式に発足</p>  <p>▼3月 総合大会講演(東京都市大)</p> <p>▼5月 電子情報通信学会誌 特集号刊行</p>  <p>▼9月 土木学会を訪問</p> <p>▼9月 ソサイエティ大会講演(岡山大)</p>  <p>▼11月 森川部門長 Wedge(11月号)寄稿</p>	<p>▼3月 総合大会 講演予定 (九産大)</p>  <p>④</p> <p>①</p> <p>②</p>

EIC 活動① 講演・登壇

💡 MNO4社のエンジニアリングに関する取り組みを、実業界・アカデミアに幅広く発信

2025年9月 ソサイエティ大会(岡山大学)

2026年3月 総合大会(九州産業大学)

TK-4.情報通信エンジニアリング分野における効率化/DX化

📢 情報通信エンジニアリング部門発足後、初めての企画セッション！

開催日：2025年9月9日(火)
時間：13:45～15:15
場所：岡山大学工学部 1号館 第5講義室
座長：岡宗一 (NTT)

開催概要：
多様化する通信利用により、情報通信インフラは社会・経済の基盤として不可欠な存在となっていますが、担い手不足が懸念されています。本セッションでは、通信業界の発展と持続可能な運営に向けて、通信キャリアが進めるDXやAI活用の取り組みを紹介します。

～プログラム～

PRESENTATION 現場起点のDX：ゲンカイプロジェクト
現場の声を起点に基地局建設のプロセスとシステムを改革するDXプロジェクト。関係会社との共創により、業務効率化を実現した具体的な改善事例とその成果を紹介します。

PRESENTATION モバイルネットワークの未来：AIネットワークとDXによる通信インフラのレジリエンス向上
通信業界では高速通信に加え、低消費電力、低遅延、持続可能なネットワークが求められています。その解決策として、AI/MLを活用したRICの必要性が高まっています。楽天モバイル網でのRIC (RAN Intelligent Controller) 展開経験に基づき、AIベースの次世代モバイルネットワークについて解説。また、頻発する災害に対応するため、災害対応DXを推進し、地理情報システムや情報連携基盤を活用した迅速な状況把握と復旧活動について紹介します。

PRESENTATION 災害時の早期復旧に向けた災害対応DXの取り組み
KDDIでは、被災状況の把握から復旧計画の策定、現地対応までを一貫して支援する社内システム群を用いて早期復旧を実現しています。実事例である地図やダッシュボードを活用した状況の可視化等、複数の技術を組み合わせた災害対応DXについて紹介します。

PRESENTATION ジェンダーフリーな職場環境の実現について
設備の構築・維持・故障修理の工事などの現場では、多数の女性社員が在籍しており、通信設備工事等の現場のさらなる女性進出と働きやすく魅力的な職場環境づくりをめざす社内プロジェクトを行っています。その取り組み内容についてご紹介します。

電子情報通信学会ソサイエティ大会 企画セッション



森川教授からのビデオメッセージ



パネルディスカッションを開催

TK-4.情報通信を支える先端技術の社会実装と通信インフラの未来

生活を支える様々な分野で通信の利用が多様化する中、情報通信インフラは社会・経済等のあらゆる活動を支える基盤であり不可欠な存在となっています。一方で、生産年齢人口の減少により、情報通信インフラを支える情報通信エンジニアリング分野（設計、工事、運用、維持管理）における担い手不足も今後見込まれています。このような状況の中で、通信キャリア各社がどのように先端技術を社会実装し効率的で持続可能な業務運営を実現しているのか、その先の展望としてどのような通信の未来を思い描いているのかについてご紹介いたします。

日時 2026年3月13日 13:45～15:15
会場 九州産業大学1号館 N302教室

【プログラム】
司会：磯邊 直志 (楽天モバイル)

13:45～13:50 開会挨拶 森川 博之 (東京大学)
13:50～13:55 部門とその取り組みについて 佐々木 秀則 (KDDI)
13:55～14:15 「インフラの老朽化や人材不足に挑む技術活用の最前線」
中川 卓 (NTT)
14:15～14:35 「AI for Network - AIとデジタルツインを用いた障害復旧の取り組み」
大和崎 啓 (KDDI)
14:35～14:55 「環境配慮と強靱化を支える先端技術の社会実装 - 持続可能な社会基盤を目指して -」 園田 啓介 (ソフトバンク)
14:55～15:15 「モバイルネットワーク監視の未来：AIが拓く自律運用の新時代」
小野 隆平 (楽天モバイル)

15:15 閉会挨拶 岡宗一 (NTT)

企画セッション聴講後、ぜひアンケートでご意見をお寄せください→

EIC 2026年 電子情報通信学会 総合大会 企画セッション



業界課題をわかりやすく解説



効率化/DX化をテーマにMNO4社が登壇

MNO4社のAI/先端技術活用を紹介

EIC (参考) 発足以前の講演・登壇

💡 MNO4社のエンジニアリングに関する取り組みを、実業界・アカデミアに幅広く発信

EIC 一般社団法人 電子情報通信学会

2024年総合大会 企画セッション

社会インフラをささえる情報通信エンジニアリングを目指して
～未来を拓く、情報通信エンジニアリングの舞台裏に迫る～

デジタル化が進む現代の生活と経済において通信サービスは必要不可欠です。しかし、私たちの日常は知らず知らずのうちに脆弱化しているのでしょうか。グローバルに展開し続けるネット社会において、これからの未来、安全なインフラを確保するために、情報通信エンジニアリングの第一人者より舞台裏と現場について語っていただきます。

日時 2024年3月8日(水) 08:00分～12:00分 場所 広島大学(東広島キャンパス) 工学部 220 教室

会長 森川博之 (電子情報通信学会会長)
副会長 岡村一 (電子情報通信学会副会長)

MC 大山由が (ON BOARD 代表取締役)

講演者:

- 森川博之氏 (東京大学大学院 工学部 教授) ネットワークインフラの重要性と未来の展望
- 大塚康裕氏 (総務省 情報通信政策課長) 情報通信インフラの重要性と未来の展望
- 森田公剛氏 (日本電信電話(株) 代表取締役) ネットワークインフラの重要性と未来の展望
- 大島成哲氏 (楽天モバイル(株) 代表取締役) ネットワークインフラの重要性と未来の展望
- 波多江孝光氏 (KDDI(株) 代表取締役) ネットワークインフラの重要性と未来の展望
- 須山百合子氏 (ソフトバンク(株) 代表取締役) ネットワークインフラの重要性と未来の展望

本件問い合わせ先: 電子情報通信学会 情報通信エンジニアリング WG
メール: service@eic.or.jp

**未来の災害対策：
情報通信に関わる事業者・官民連携で描くビジョン**

Future Disaster Countermeasures :
Visions by Telecom Companies and Public-Private Collaboration

講演者:

- 東京大学大学院 森川博之氏
- 総務省 大塚康裕氏
- 日本電信電話(株) 森田公剛氏
- 楽天モバイル(株) 大島成哲氏
- KDDI(株) 波多江孝光氏
- ソフトバンク(株) 須山百合子氏

↑2024年 COMNEXT(東京ビッグサイト)

←2024年 学会総合大会(広島大学)

2025年 学会総合大会(東京都市大学)→

**進化する通信インフラ
情報通信エンジニアリングの
現場と未来**

～若手技術者の挑戦～

NTT, KDDI, ソフトバンク, 楽天モバイル合同開催

開催日時 2025.3.26(木) 13:45-15:10
会場 東京都市大学 世田谷キャンパス1号館11E

講演者:

- 中村元氏 (NTT)
- 神田康博氏 (ソフトバンク)
- 澤森俊氏 (KDDI)
- 林田悠子氏 (楽天モバイル)
- 澤森俊氏 (NTT)

議長 NIT IOWN 総合イノベーションセンター 担当部長 岡宗一

EIC 活動② 寄稿



エンジニアリング業界の現状と課題を、オピニオンリーダー層向けに発信



- Wedge 2025/11月号に 森川部門長が寄稿
- 通信インフラ現場の人手不足について論述

学会誌へ論文を掲載し、情報通信エンジニアリング業界の課題を専門的にレポート



2025年5月 学会誌

特集 未来を創る情報通信エンジニアリング

- ✓ 特集編集にあたって (森川 博之)
- ✓ 災害時に見る通信インフラ復旧への取組み (森田 公剛、大島 成哲、波多江 孝光、須山 百合子)
- ✓ 情報通信エンジニアリング分野における効率化, DX化の取組み (川西 圭景)
- ✓ サステナビリティに対応するエンジニアリング業界の取組み (須山 百合子)
- ✓ エンジニアリング分野における少子高齢化時代の人材確保の取組み (田邊 誠二)
- ✓ 技術継承におけるエンジニアリング領域の活性化への取組み (佐藤 進)



EIC 活動④ 対話・意見交換



他の学会との対話・意見交換を通じた気づき (先行業界の貴重な知見を活用)



土木学会との意見交換

- ✓ 土木学会からのご参加:
池内会長、三輪専務理事、
久田教授(東北大インフラ・マネジメント研究センター長)
- ✓ 総務省からのご参加:
杵浦 電気通信技術システム課長
北神 安全・信頼性対策課長
- ✓ 情報通信エンジニアリング部門からの参加:
森川部門長、NTT、KDDI、SB、RMメンバー

項目	得られた知見	キーワード
技術的課題	<ul style="list-style-type: none"> • 更新投資が続く間は老朽化が顕在化しにくい • 更新が止まると老朽化が一気に顕在化 • 地域格差の存在 	「潮目が変わる」現象、維持管理と更新投資のバランス
社会的背景	<ul style="list-style-type: none"> • 建設業縮減で未完了工事が過去最高 • 「まち・ひと・しごと」=地方創生と直結 • Society5.0 など新しい社会像にも対応が必要 	社会的需要とリソース制約のねじれ
事故からの教訓	<ul style="list-style-type: none"> • 笹子トンネル事故(2012): 付属構造物(天井板)の崩落 • 八潮陥没(2025): 地下構造物のリスク認識、老朽インフラが他を巻き込む 	表層構造だけでなく地下・周辺インフラの連鎖的劣化
事故と社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> • 笹子事故は付属構造物の崩落でも、土木全体が説明責任を負う 	社会からは「専門区分」よりも包括的に問われる
技術的接点	<ul style="list-style-type: none"> • 橋梁添架管路など、インフラ部材の共用化・共同メンテの余地あり 	異分野協力による効率化・新領域の可能性

一般社団法人 電子情報通信学会

特別会員 会員募集中!

情報通信エンジニアリング部門発足にあたって

このたび、電子情報通信学会において「情報通信エンジニアリング部門」が発足しました。皆様方のご支援にあらためて感謝申し上げます。情報通信インフラは、今や現代あの人々の生活を支えるとともに将来の人々にも多大なる恩恵をもたらす社会基盤となりました。そして、この社会基盤を支えていただいている方が日本全国津々浦々に多くおられます。

本部門の目的は、デジタル社会の根幹を支える情報通信インフラの持続可能かつ健全なる発達を回り、社会の発展に寄与することです。本部門がカバーする領域は、通信ネットワークの設計、災害時のインフラ復旧、通信品質やエネルギー効率の向上、通信建設DX、技術継承や人材問題、情報通信政策・官民連携の在り方、社会への正確な情報の発信など多岐に渡ります。情報通信エンジニアリング活動への強力なご支援をよろしくお願いいたします。

一般社団法人電子情報通信学会
情報通信エンジニアリング部門長
森川 博之(東京大学)

業界を支える、その一員に。是非、ご入会下さい。

会費 1口10万円 (入会金: 会費の20%)

準員 1口につき、3名が準員として情報通信
エンジニアリング部門で活動できます。



お問い合わせ

一般社団法人電子情報通信学会 情報通信エンジニアリング部門担当

Mail: r-oku@ieice.org https://www.ieice.org/jpn_r/division/ice/

特別会員とは

一般社団法人電子情報通信学会の特別会員は、部門での活動に参加するために会費を納める法人/団体です。

本部門に参加することで、情報通信インフラに関する産学連携による共同活動、専門人材とのネットワーク形成など、貴組織の取り組みに資する多くの機会が得られます。また、1口（年額10万円）につき3名まで準員として登録可能です。

会費

【会費】100,000円（税込）/1口

【入会金】基本年会費の20%に相当する額



ホームページはこちら

https://www.ieice.org/jpn_r/division/ice/#membership

